



日本共産党佐々町議会議員

永田かつみの 議会報告

憲法をくらしに生かし、 より良い佐々町をめざして

7月議会

永田町議が初質問

7月25日から27日まで開かれた7月定例佐々町議会で、初質問に立った日本共産党の永田かつみ町議は、「憲法をくらしに生かし、よりよい佐々町をめざして活動していく」と町議としての抱負を語り、町議選挙で公約した①小中学校へのエアコン設置 ②国保税の引き下げ ③玄海原発再稼働反対の態度表明の3点について質問を行いました。

した。

町長は、長崎県のエアコン設置状況から見て本町なみの市町が多い、将来的には検討が必要となってくるが、早急な設置は予定していない。とのべました。

設置費用は国の補助と起債活用で

続けて、「教室の温度はどうか」との質問に対しては、今年の7月14日・18日の測定結果として、最高気温が33度、最低気温が28度という結果が示されました。

永田町議は30度を超える環境で長時間の授業には耐えられないというのが常識

ではないか。全国平均で49・6%の教室に設置されており、東京都・香川県などではほぼ100%の設置状況、長崎県は九州のなかで唯一8・6%と一桁の設置率であり、このままでは佐々町は全国的にも遅れた地域となってしまう。と指摘しました。

さらに今回の質問のなかで、設置費用は町の試算で1億800万円程度であり、そのうち国の補助が3分の1、残りは起債活用でできるという事も明らかになりました。

質問をうけて町長は、「エアコンの必要性は十分認識している」学校施設の整備計画を立てており、その中でエアコンについても十分検討しながら進めていかななくてはならない」と回答しました。

※起債とは…簡単に言えば町の借金。その返済費用の一部を国が保障する(交付金で補助する)仕組みがとれられており、その分は町の財政負担が軽くなる。

①小中学校へのエアコン設置は 待ったなし、↓↓町長「十分 検討する」と約束

年々ひどくなる 夏場の異常な高温

永田町議は、長崎県では90・4%の家庭に平均2台以上のエアコンがあり、子供達はエアコンがあるのが

あたりまえという環境で育っている。ことしも連

日熱中症が発生するなど夏場の異常な高温は年々ひど

くなっている。大気汚染の

心配もあり窓をあけられな

い日もある。教室の中はム

シ風呂状態で、勉強に身が入らないという実態をあげて、エアコン設置は待ったなしではないか。と質しま

